

[仕様]

■ファイコンTCB気管支ブロッカー Type-S (ファイコンTCB気管支ブロッカー、シーベルコネクターのセット品)

| 製品番号 | サイズ (シャフト外径) | 全長 | 有効長 ^{※1} | 最大カフ容量 ^{※2} | シーベルコネクター死腔容量 | 包装単位 |
|---------|---------------|--------|-------------------|----------------------|---------------|---------|
| 0203105 | 3.0 mm (9 Fr) | 665 mm | 510 mm | 8 mL | 20.5 mL | 1 セット/箱 |

滅菌済 単回使用

■ファイコンTCB気管支ブロッカー Type-T (ファイコンTCB気管支ブロッカー)

| 製品番号 | サイズ (シャフト外径) | 全長 | 有効長 ^{※1} | 最大カフ容量 ^{※2} | シーベルコネクター | 包装単位 |
|---------|---------------|--------|-------------------|----------------------|-----------|-------|
| 0203106 | 3.0 mm (9 Fr) | 665 mm | 510 mm | 8 mL | 付属されません | 1 本/箱 |

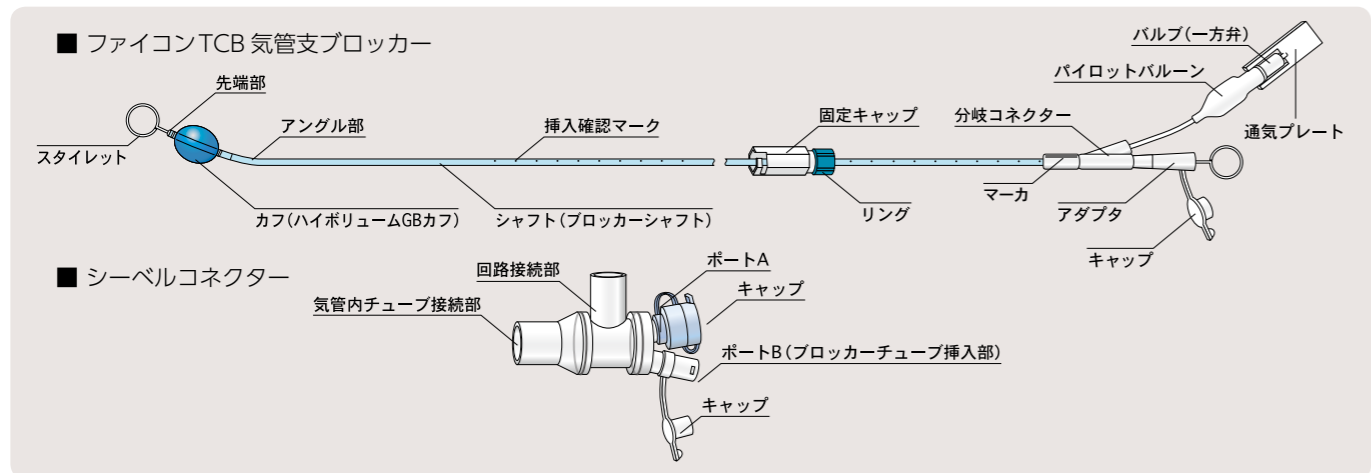
滅菌済 単回使用

※1 有効長はシーベルコネクターをセットした状態で先端部から気管内チューブ接続部までの最長値です。

※2 最大カフ容量は使用時の注入量ではありません。

※ 数値はすべて近似値です。

[各部名称]



[使用上の注意]

- 滅菌包装より丁寧に取り出し、破損等が生じていないことを確認してください。[破損等が生じている場合は、使用しないでください]
- 無理に引張ったり、切断、穴をあける等の追加加工はしないでください。
- 刃物、鉗子、針等の傷には十分注意し、傷が生じている (生じた) 場合は使用しないでください。[傷が生じることにより強度が著しく低下します]
- カフを膨張させる際は、バルブ (空気注入口) より繊維 (リント) 等が混入しないよう注意してください。[バルブの機能が低下し、カフ収縮の原因となります]
- カフを膨張させる際は、清潔なシリンジを使用してください。[シリンジに付着しているリント等が、バルブ内に混入する危険性があります]
- HFJV や人工呼吸回路などをTCB気管支ブロッカーに接続して換気を行う際は、回路等の重さによりブロッカーシャフトがキンクし、換気を行えなくなる場合がありますのでご注意ください。
- 気管支ブロック後の吸入酸素濃度は50%以上とし、ベンチレーターを用いて換気してください。
- 術側肺が完全に虚脱した時点、又は気管支ブロック後20分を経過した時点で、PaO₂の測定を行ってください。
- 一回換気量は適当な換気量計で、また、吸気時の最大吸気圧は麻酔回路等の圧力計で常にモニターしてください。
- パルスオキシメーターで、SaO₂を常にモニターしてください。
- 使用後は、廃棄物処理法に基づき適正に処理してください。
- 滅菌包装を開封した後、何らかの事情で使用しない場合は廃棄してください。
- ご使用には、必ず添付文書をお読みください。

[禁忌・禁止]

1. 使用方法
 - (1) 再使用禁止
 - (2) 本製品は、使用目的以外に使用しないでください。
 - (3) 使用前の滅菌包装に破損、水漏れ等の異常が認められる場合は使用しないでください。
 - (4) 本製品は、気管切開チューブには使用しないでください。
 - (5) 気管内チューブの内腔に、ブロッカーチューブ及び気管支鏡又はサクシオンチューブ等を挿入する十分な余裕がない場合は、使用しないでください。[手術中の操作が不能となります]
 - (6) 使用前のカフ検査で、異常が認められた場合は使用しないでください。[膨張及び収縮不能が生じ、膨張不能は術側肺の虚脱不能に、収縮不能は抜去時の気管・気管支損傷等につながります]
 - (7) カフ、シャフト、空気注入管は、鉗子等で把持しないでください。[傷が生じると、破損の原因となります]
 - (8) 潤滑作用を有する薬剤等は、カフ以外に塗布しないでください。[ブロッカーチューブの先端孔に塗布すると、内腔が閉塞する危険性があります]
 - (9) カフは、空気以外で膨張させないでください。
 - (10) カフを膨張させた後は、通気プレートをバルブに装着しないでください。[装着するとカフが収縮します]
 - (11) いずれのスタイレットも、抜去後はブロッカーチューブに再装着しないでください。[再装着は、シャフト破損の原因となります]
 - (12) 術側肺の気管支をクランプする際は、挿管されているブロッカーチューブの上から、気管支をクランプしないでください。[気管支の上からクランプすると、カフやシャフトの破損、気管支損傷等の原因となります]
 - (13) 挿管 (手術) 中のブロッカーチューブは、反対側の気管支へ入れ替えないでください。[ブロッカーチューブの角度部が伸び、カフ破損、気管・気管支損傷等の原因となります]
 - (14) 患者に挿管した状態で、MRI検査を行わないでください。[本製品は、金属製の部品を使用しています]
2. 併用医療用具
 - バルブには、三方活栓等を接続しないでください。

※本カタログに掲載の仕様・形状は改良等の理由により、予告なく変更することがありますのでご了承ください。

販売名: ファイコンTCB気管支ブロッカー
 一般的名称: 換気用気管支閉塞カテーテル
 クラス分類: 管理医療機器
 医療機器認証番号: 223ADBZX00078000

発売元



富士システムズ株式会社
<http://www.fujisys.co.jp/>

代理店

- 本社 〒113-0033 東京都文京区本郷3-23-14
- 札幌支店 〒060-0005 札幌市中央区北5条西6-2-2
- 仙台支店 〒980-0014 仙台市青葉区本町2-15-1
- 大宮支店 〒330-0801 さいたま市大宮区土手町1-2
- 東京支店 〒113-0033 東京都文京区本郷3-23-14
- 横浜支店 〒222-0033 横浜市港北区新横浜3-19-5
- 名古屋支店 〒460-0007 名古屋市中区新栄2-19-6
- 金沢支店 〒920-0031 金沢市広岡1-1-18
- 大阪支店 〒540-0026 大阪市中央区内本町2-4-7
- 広島支店 〒730-0015 広島市中区橋本町10-10
- 福岡支店 〒812-0038 福岡市博多区祇園町1-40

- TEL (03) 5689-1901 FAX (03) 5689-1907
- TEL (011) 211-0751 FAX (011) 211-0783
- TEL (022) 748-4201 FAX (022) 748-4204
- TEL (048) 729-6480 FAX (048) 644-9004
- TEL (03) 5689-1901 FAX (03) 5689-1907
- TEL (045) 473-5321 FAX (045) 473-5309
- TEL (052) 265-9221 FAX (052) 265-9225
- TEL (076) 255-3499 FAX (076) 262-2123
- TEL (06) 6943-8404 FAX (06) 6943-1425
- TEL (082) 555-8091 FAX (082) 227-4255
- TEL (092) 262-6777 FAX (092) 262-6770

(F-0195)E.平成30年3月作成.CR



TCB BRONCHIAL BLOCKER

ファイコンTCB気管支ブロッカー



柔軟な高トルク性ブロッカーシャフト
 (金属メッシュ入り) により、
 左右気管支挿入時の操作性が
 向上しました。

富士システムズ株式会社

TCB BRONCHIAL BLOCKER

気管内チューブに接続した状態で回路接続部が可動できるシーベルコネクター（分離タイプ）を新採用するなど、ファイコンTCB気管支ブロックは、独自の技術で、より高い機能性や安全性を可能にしました。

■ 挿入の目安となる手元のマーカ
カフの向きの目安となるマーカを手元操作部につけることで挿入操作のストレスを軽減します。



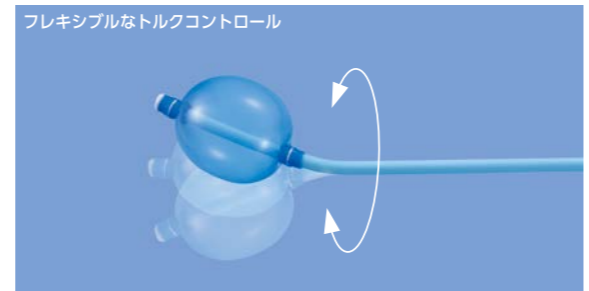
■ ハイボリューム GB カフ

柔らかい特殊なシリコン製ハイボリュームGBカフの採用で、従来のシリコン製カフの特性を生かしたままガス透過性の改良を行い、エア抜けを大幅に減少させることに成功しました。（下グラフ参照）
バルーンの色も、あざやかな青色とすることで視認性を高めています。



■ TCB ブロッカーチューブ

高トルクのブロッカーシャフト（金属メッシュ入り）の採用により、トルクコントロールが向上し、目的部位への挿入操作がしやすくなりました。また、X線透視下での位置確認も容易に行えます。



■ シーベルコネクター

回路接続部を簡単に回転できる可動型シーベルコネクター（分離タイプ）を装備。麻酔回路との接続後に位置や角度のずれが生じても、ブロッカーチューブに無理なトルクをかけません。また、気管支ファイバースコープ操作中も、換気が容易に行えます。



使用目的

胸部外科領域における各種気管チューブと組み合わせ、左右気管支の選択的ブロックによる分離肺換気を目的に使用します。

一般的なご使用方法

経口、経鼻よりすでに挿管されている各種気管チューブなどを經由して、左右気管支の目的とする部位でカフを空気で膨張させ、ブロッカーを留置し、気管支をブロックした後に分離肺換気を行ってください。

ご使用方法

1. 包装に破れなどの破損が無いことを確認してください。
2. 滅菌包装より本製品を丁寧に取り出し、破損等が無いことを確認してください。
3. 本製品の患者側先端に付いているスタイレットとバルブに装着されている通気プレートを取り外してください。
4. 清潔なシリンジを用い、本製品のカフにバルブ（一方弁）より最大容量以下の空気を注入し、正しくカフが膨張することを確認してください。
5. すでに挿管されている各種気管チューブにシーベルコネクターを接続してください。
6. 本製品を気管内チューブに内視鏡などでブロッカーチューブの先端位置を確認しながら挿入していき、目的の位置で機器側端のスタイレットを取り外してください。
7. 内視鏡などで目的とする部位に誘導し、バルブ（一方弁）より適量の空気をカフに注入して膨張させ、固定留置を行ってください。
8. 手術中は聴診、内視鏡やX線透視などで定期的に留置位置及び留置状態を確認してください。また、カフの空気量の確認も定期的に行ってください。
9. 使用後は廃棄物処理法に基づき、適正に処理をしてください。

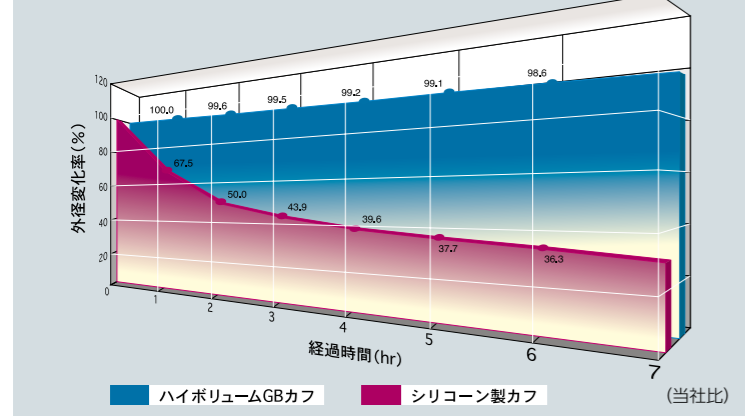
■ ブロッカーチューブの交換が可能

交換用シャフト
< Type-T >

緊急時など、麻酔回路と接続しているシーベルコネクターを外すことなく、ブロッカーチューブのみの交換が可能です。また、脱気時にはカフがスクリー状に縮まり外径を最小に抑えることで交換・挿入が容易に行えます。



最大注入時からのカフ外径経時変化率



<弊社気管内チューブと組み合わせた使用例>

